

第7回新県立体育館整備基本計画検討委員会 議事要旨

1 日 時

令和5年8月23日（水）午前9時30分から午前10時55分まで

2 場 所

秋田県議会棟大会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委 員

熊谷 嘉隆、高橋 義雄、尾崎 宏樹、田中 志穂、千葉 雅也、佐藤 慶子、高橋 周也、三浦 純也、水野 勇気、水澤 聡、納谷 信広 以上11名

（2）事務局

観光文化スポーツ部次長、スポーツ振興課長、スポーツ振興課新体育館整備チーム

4 内 容

（1）委員長挨拶

- ・ 本日で7回目、最終回となる。前回は、対応競技と優先順位に関する方向性が固まった一方、敷地レイアウトに関しては、現在の丘・緑地・遊具よりも機能が高まるという点では一致したが、機能的かどうかということだけでなく、丘に対する地域住民の思いを再確認し、丁寧に対応していくべきという意見があった。これについては事務局で動きがあったということで、後ほど報告していただく。
- ・ これまでの議論を基に事務局で取りまとめた素案について、各委員から、新体育館に期待することや思いなどをメッセージとしてご発言いただきたい。最終回となるが、これまでと同様、忌憚のない意見を願います。

（2）報告事項

- ① 委員意見要旨について ※資料説明のみ・質疑なし

<委員長>

- ・ 事務局から、県の総合計画を審議している会議の間でも有識者に意見を伺ったこと、地域の方々に直接説明したことについて報告があった。
- ・ 前回委員会の最後に、私からも、丁寧な説明を行い、しっかりと目線を合わせて進んでいくことが大事と指摘していたが、迅速に対応したことに敬意を表したい。

② 県民意見について

<委員長>

- ・ No. 101 の意見は八橋の丘に対する思いであり、No. 102 の意見は、避難所機能に関する意見である。

(3) 意見交換

① 新県立体育館整備基本計画（素案）について

<委員長>

- ・ これまで意見交換してきたことが反映された素案となっている。
- ・ 各委員から新体育館に期待すること、提案したいことなどを自由に発言いただきたい。

<委員>

- ・ 素案を読んで、とても充実している体育館になると感じた。コロナ禍により観客がいない中でプレーをしていたので、競技コートや駐車場の部分を読んで、多くの観客に来ていただける施設になると実感した。
- ・ 体育館がとても大きく、動線もしっかりしている。選手が入る場所、観客が入る場所、メディアが入る場所がしっかり分かれている。これまではそれらが一緒になっている場合があり、困惑することがあったが、それが解消されるので良いと思う。

<委員>

- ・ 障害者スポーツの立場では、体育館の入口が1箇所に見えるが、障害者の方は利用する器具も多くなるので、荷物搬入口の設置などについて配慮していただけるとありがたい。
- ・ 連携事業者として、秋田ノーザンハピネッツと秋田県スポーツ協会の名前があがっているが、障害者スポーツ団体との連携についても明記していただけると大変ありがたい。
- ・ 全体的に障害者の方が利用しやすい施設になると感じた。
- ・ 建物の中も外も、障害の有無にかかわらず利用しやすい施設にしていきたい。そのために、障害者スポーツ団体や障害のある方の当事者意見を参考にして進めていってほしいと強く願う。私たちが考えている以上に、必要な情報を具体的に話していただけると思う。
- ・ 新体育館が障害者スポーツセンターの機能を有する施設となるためには、その担い手が必須になるので、そうした点も含めて検討をお願いしたい。

<事務局>

- ・ 体育館側の出入口については、まさに民間の創意工夫が生かされる部分となるので、次の要求水準書の段階で、しっかりと考え方を示していきたい。

<委員長>

- ・ 連携のあり方に関しても反映していただきたい。先日、市内の公共施設を訪れたとき、車いすの方が使い勝手が若干良くないとコメントしていた。こうしたこ

とは、設計の段階でしっかり反映させる必要があり、全県民に使っていただく施設となることから、この点もぜひお願いしたい。

<委員>

- ・ 素案を見させていただき、まずは事務局の労苦に感謝したい。
- ・ 中学生の憧れの場となるよう、可能な範囲内で中学生の使用に関して敷居が低くなる体育館であってほしい。
- ・ 今後、少子化と運動離れが進んでいくと思われるが、そうした中で運動部活動の地域移行を進めている。今後、地域クラブとの連携も必要になってくると思うので、時代に合った運用をお願いしたい。
- ・ 中学生が近づきやすい雰囲気にするという意味では、例えば、体育館の中に、秋田県のスポーツに関する様々な資料などが揃っていれば、より身近なものになるのではないかと思う。

<委員長>

- ・ 基本方針では、「秋田の元気を創造する拠点」として子どもたちに夢を与えらるっており、これを踏まえて、設計や運営をしていただきたい。

<委員>

- ・ 率直な感想として、大変良くまとまっている素案である。基本方針にあるとおり、子どもたちに夢を与え、選手と観客が躍動し、賑わいづくりにも貢献するという目的を十分達成できる基本計画になっている。
- ・ 都市公園としての機能の向上を図るため、八橋運動公園全体の中核施設としての役割を果たしていくことにまで配慮しており、非常に良い。
- ・ トップスポーツだけでなく、県内の中高生にとっても憧れのアリーナ、体育館になっていくのではないかと期待する。
- ・ 効率的な施設運用の部分で、設備機器の更新のしやすさに配慮された設計を求めるとあるが、設備関係は更新時期が早いので、そうしたところも考慮した設計にしていただきたい。

<委員長>

- ・ 第1回検討委員会でも、若者にとっての憧れの場所、スポーツの聖地となるような場所という意見があった。
- ・ 長期的なコストを考えると保守点検のしやすさは大事である。設計の段階でしっかりと反映していただきたい。

<委員>

- ・ 基本計画の素案として、良い内容であると思う。
- ・ 大きなところとして、6,000人以上の規模を目指すことや駐車場500台という議論があったが、今後肉付けしていく要求水準書の部分が肝になると思っており、関係団体などと協議していく場が必要になるのではないか。
- ・ 連携事業者としてスポーツ協会の名前が挙がっているが、要求水準書を作るまでに、スポーツ医・科学の分野など具体的な話し合いをお願いしたい。
- ・ 最も大きな課題は人口問題である。新体育館ができてから20年以内に人口が現状の2/3になる。子どもの数は減り、高齢化率も非常に高くなり、どの都道府県よりも、未曾有の危機的な状況になる。新体育館の機能については、そうし

た社会情勢の変化に合わせて、今後、柔軟かつ迅速に対応していかなければならない。

- ・ 未来への投資として具体的にどのようなことが求められているのか、ここを掘り下げて説明していくことがこれからの課題になり、それがうまくいけば、新体育館は、県民にとってより良いものになると思う。

<委員長>

- ・ いくつか重要な指摘があった。要求水準書の策定に当たっては、事前に様々な意見を聞かないとならないというのは全くそのとおりと思う。
- ・ 現時点は建設に向けてのフェーズ1であり、これから要求水準書の作成や賑わい創出の仕組みづくりを進めていかなければならない。そのあたりの俯瞰的な視点についても間接的に指摘した意見と受け止める。
- ・ 人口減少については、まさに現在進行形である。そこを見据えてどういう弾力的な運営ができるのか。人口減少を止めることは全国どこでもかなり厳しいので、いかにして交流人口、関係人口を県外から呼び込むのか、そのための新体育館でもあるため、このことを真剣に議論していかなければならない。

<委員>

- ・ これまで議論・検討を重ねてきたことを十分整理し、素案として反映されていると強く感じる。
- ・ 新体育館の整備主体である秋田県、公園管理者である秋田市、利用者である県民や地域住民など多様な主体の思いを繋ぐような設計に期待したい。
- ・ 計画の中にも書かれているとおり、幼児から高齢者までの多世代が気軽に利用できる公園を目指し、丘を始め、公園の特徴をできる限り生かしながら、これまで同様、シンボル性があって親しみやすい公園であり続けるということが整備を進める上での前提条件になると思う。
- ・ 特に、子どもたちが遊具のある広場や緑の丘でのびのびと遊ぶことができる空間や、高齢者の方々の健康づくりや憩いの場となる公園とし、新体育館だけでなく、八橋運動公園全体のゾーニングを意識した整備を望みたい。
- ・ シンボル性の高い施設を整備することで、様々な人たちが公園に集い、新しい価値が生まれる場所、色々な人たちが繋がる場所になっていけば、次の世代である子どもたちにとっても思い出に残る場になると思う。
- ・ 一人の住民として丘への強い思いはあるが、事務局の報告にもあったように、ここが未来に繋いでいくための大きなターニングポイントになると思う。60年後、再度建替えの話になったとき、新たに整備される丘に対する思いが地域住民から湧き出てきて、次の整備に繋がっていくことになれば、そこに住む者としてありがたいと思う。

<委員長>

- ・ 地域住民にとって慣れ親しんだ大切な場所であることを踏まえた上で、次の世代にバトンタッチできるような公園、次の世代が誇りを持って活用できるような公園にしたいということである。
- ・ 新体育館だけでなく、八橋運動公園全体のゾーニングについても言及されていた。今後、県と市が協議し、それぞれ議会でも議論があると思うが、このことについての連携が大事であると改めて認識した。

<委員>

- ・ P F I は従来手法よりも自由度が高い。素案では、アリーナの部分で「みる」ことを重視して整備するとあり、素晴らしいと思う。アリーナは「みる」人にとって適した施設でなければならない。
- ・ 映像設備だけでなく音響設備についての記載も充実してほしい。また、いずれの設備についても、プロスポーツや国際大会などに十分対応できるという記載があれば良い。
- ・ 搬入口については、車両の運行や乗り入れができる構造が良い。
- ・ 駐車場については、例示の金額ではあるが、1日50万円という貸切料金の設定はかなり厳しいのではないかと思う。観客1人当たり1,000円程度の上乗せを想定していると思うが、女子バスケットボールチームやバドミントンチーム、Tリーグなどでは駐車場を貸切ること自体がこれまでなかったわけであり、貸切料金が高すぎると利用を控えることになってしまうのではないか。貸切料金の考え方についてはもう少し協議できれば良いと思う。

<委員長>

- ・ 使用料に関して、イメージということで、まだ具体的な提案ではないと思うが、持続的な施設運営の観点では、どうしてもお金は必要になる。バランスをとることは簡単ではないが、他の施設の事例も踏まえ、引き続き協議をお願いしたい。

<委員>

- ・ 緑地に関して要望書を提出された方々に説明したということであり、市の方でも、先日、市議会に説明した。その際、工事のスケジュールにおいて、現在の計画では、約5年間、丘や緑地が使えなくなる期間があることについて、十分配慮してほしいという意見があり、その方策を考えてほしいと思う。
- ・ ロータリーの設置についても、狭隘であることや安全性の面などから危惧する意見が市議会からあった。市としては、現在の案を基本としつつ、市議会からいただいた指摘なども踏まえて、今後、掘り下げて検討していかなければならない課題と思っているので、引き続き、県と市の協議をお願いしたい。

<委員長>

- ・ 前回の検討委員会の後、事務局が地域の方々とひざ詰めで意見交換したことは良かったと思う。地域の声を生で聞くことは大事である。今後、詰めていかなければならないこともあると思うので、この点は引き続きお願いしたい。

<委員>

- ・ ここまで具体的な素案としてまとめていただき感謝したい。
- ・ 専門外のことをコメントする場面もあり、少し戸惑いもあったが、委員長のイニシアティブのもと、素晴らしい素案にまとまったと思う。
- ・ 様々な枠組みに関し、いろいろな方の意見を取り入れているため、不満が残る方もいると思うが、この基本計画づくりは、そうした意見に最大限配慮して作り上げた、素晴らしい取り組みであったと思う。今後も、いろいろな意見やアイデアを取り入れて、さらに良い仕様にしていただきたいと思う。
- ・ 新体育館に期待することとして、スポーツの「みる」・「する」・「ささえる」がそれぞれに行き来できるような施設になってほしい。「みた」後に「する」、プレーを「した」後で「ささえる」側になるなど、そういった行き来ができると非常

に良い。素晴らしい施設になることを期待している。

- ・ ハイパフォーマンススポーツセンターに言及されている点があるが、公式にはセンターと秋田県で具体的な連携の枠組みがまだ構築されていないので、連携を目指すというような表現にしてはどうか。

<委員長>

- ・ 専門家からの建設的なコメントであり、指摘された箇所の修正をお願いする。

<委員>

- ・ 細かい資料を作っていただき感謝申し上げます。スタジアム・アリーナに関する国の会議での議論も付加して意見を述べると、例えば、新体育館の建設後、イベントがない日にどのようにして人を集めて賑わいをつくるのかが非常に大事になるので、周辺との連携を十分図っていくことを民間事業者に要求すべきである。
- ・ コンサートなどについても、県内に事業者が存在していれば申し分ないわけであるが、他県では、エンターテインメントマネジメント会社や外資系企業が運営事業者となっていたり、アリーナやプロ野球の球場で大手広告代理店や新聞社が参画している例もある。こうした事業者に対して、秋田の新体育館の運営に関わってもらえるよう広くPRすることも大事である。当然、地元にもメディアがあり、コンテンツビジネスとして参入することも考えられるのではないか。デジタルに関して、他県では大手通信事業者が参画している事例もある。
- ・ 外観は重要である。例えば、何もない日に、地元チームの雰囲気を出すライティングや、海外のように大型ビジョンを整備し、中に入れなくても観戦できるような外観が望ましい。イメージ図では、単なる壁として表現しているが、民間事業者に対して効果的な外観とすることを求めることとし、その際は、単なる造形美でなく、機能性を要求すると良いのではないか。
- ・ 他の委員も指摘していたが、人口動態調査はほぼ狂いが無い。指定管理15年を迎える頃には、秋田県の人口は60万人であり、高齢者が増える。スポーツ施設がどのようにして高齢化社会に対応していくのか日本全国から注目される。他県の施設では、運営に医療法人が関与するケースもあるが、スポーツ医・科学についても、高度なエキスパートを養成するというより、介護や機能回復といった機能に徐々にシフトしていくことが必要になると思う。
- ・ スポーツ観戦している高齢者の方が健康度が高いという調査結果もあり、高齢者こそ試合を生で観戦していただきたい。新体育館には、超高齢化社会におけるスポーツ施設のあり方をみせていただきたいと思う。

<委員長>

- ・ イギリスのサッカーの聖地となっているウェンブリースタジアムや、アメリカの野球の聖地とされるフェンウェイパークなどは、見ただけでワクワクし、そこに近づくだけで異次元の空間に入っていくような高揚感がある。歴史の重みもあると思うが、一番感じるのは、そこに集う人たちの施設に対する思いの大きさである。
- ・ 県負担が100億円を切るといっても、基本的には、公金で200億円を投じて作る施設であり、現在の県民、これから秋田や東北を担っていく県民のためにも、しっかりしたものを作らないといけないと改めて感じた。
- ・ 全国で最も速く人口減少と高齢化が進んでいる秋田での持続可能なアリーナ運営という非常に貴重な提言と受け止める。要求水準書や建設の段階で積極的に議

論をしていただきたい。

② 本委員会の総括について

<委員長>

- ・ 本委員会の初日に、皆さんと目線合わせを行った。どういったものを作りたいか、作って何をどうしたいかを語っていただいた。その中で出てきたのが、スポーツを「みる」人・「する」人・「ささえる」人に夢と感動を与えるような施設にしたいということであり、子どもたちにとってスポーツの聖地となる施設にしたい、賑わい創出にしっかり連動する施設にしたいということであった。
- ・ 我々は、東京オリンピックやワールドカップで世界中・日本中からトップアスリートが集まり躍動する姿を目にすることで、スポーツの持つ力をまざまざと感じた。それを秋田にも作ろうではないかというコメントをたくさんいただいた。この目線合わせを踏まえた上で、場所と規模をどうするのか、どういう競技を優先するのかも議論した。
- ・ 八橋運動公園と県立中央公園という2つの候補地を検討したが、アクセスや賑わい創出を考えると、やはり八橋運動公園ということになった。県立中央公園の場合、冬の運転の危険性と除雪の大変さという事実があり、そういう点からも八橋運動公園が妥当という共通認識を持つに至った。
- ・ 人口減少が全国最速で進んでいく中では、どうやって節約するのかという意見になりがちであるが、未来への投資として、国の補助金を様々活用して、県負担をなるべく抑えてしっかりしたものを作ろうということで、アリーナの規模は6,000人以上が良いという共通認識を持つことができた。財政と規模を非常にバランス良く見据えた案であるとして、委員全員が賛同した。
- ・ 駐車場に関しては、交通量調査を行った結果が500台であった。やってみないと分からない部分もあるが、経験値からも500台程度は必要という意見もあった。また、車で来ない、来れない方もたくさんいるため、公共交通機関の利用などをしっかりと推進していかなければならないが、次のフェーズでは、ワクワクしながらアリーナに行くための仕掛けづくりを考える必要がある。
- ・ 最後に大きな懸案となったのが、丘・緑地・遊具広場をどうするかであった。委員と住民の両者から緑地への思いが表明され、これに関しては、事務局で真摯に耳を傾けて、なぜこのようなプランになったか丁寧に説明した結果、地元代表者の理解をある程度得られた。大きな一歩であったと思うが、引き続きキャッチボールを続けていただきたい。
- ・ 機能をどうするか、スポーツの優先順位をどうするか、その他料金もテーマとなり、引き続き検討が必要になるものの、これまでの検討内容を素案として取りまとめて県議会に提出し、その結果を我々にフィードバックしていただきたい。
- ・ 今後は、県民・市民の代表である県議会・市議会に委ねられるが、建設的な議論がなされることを切に祈る。委員の皆さんには7回にわたり貴重な意見をいただき、大変感謝している。

(4) その他

<委員>

- ・ 連携事業者として地元チームを挙げていただき、非常に感謝している。また、各委員からも、チームが置かれている状況をご理解いただき、感謝申し上げたい。

- 新B1の名称がBリーグプレミアと正式に決定した。平均4,000人以上という要件を必ず達成し、このアリーナで、5年、10年、20年、30年と、チームがトップカテゴリーで優勝争いできるよう頑張っていきたいので、ぜひ会場に来ていただき、応援してほしい。

以 上